

## 平成 28 年熊本地震 ボランティア リレー稿

平成 28 年熊本地震（4 月 14～16 日）において、5 月の連休までの間に、岡崎幸治（平成 26 年卒 L、医師）、朝倉幹晴（昭和 60 年卒 L、市議）、池田智子（昭和 60 年卒 Bt、保健師）、水野直輔（昭和 60 年卒、外資系会社員）がそれぞれ連絡を取り合って熊本支援に入りました。また石田昌宏（平成 2 年卒 B、参議院議員）も独自に参加しました。

この動きは、卒部後もつながり続けた赤門鉄声会員や東京六大学応援団連盟員ならびに東京大学野球部 OB の絆に支えられました。今回、会員寄稿の一角に、5 人の報告を支援日程順に連続寄稿させていただきます。

以下、朝倉の文章のみ掲載

昭和 60 年卒 朝倉 幹晴

### 1.はじめに

今回の熊本震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災者が一刻もはやく平穏を取り戻すことができるように祈念します。

震災直後より TV・ネット報道とともに、東京六大学応援団連盟同期で熊本県民の明治の角野くん・福岡くんが被災された状況報告、鉄声会の岡崎くんの医師としてのいち早い活動を FB を通じて見ていました。

無党派で船橋市議（4 期目）をさせていただき、災害対策を管轄する総務委員会の委員長を務めさせていただいていること、また、昨年秋、鬼怒川周辺水害後片づけで 7 回ほど常総市・栃木市に災害ボランティアに入った経験も活かして少しでもお役にたてればと思いつながら出発しました。

### 2.避難所となった熊本市役所 1 階ロビーと熊本市中心街の状態（4 月 25 日）

25 日の到着時に、明治の角野くんと待ち合わせの場とした熊本市役所 1 階ロビーは、通常窓口業務が行われる一方で、床にひかれた毛布に多くの被災者が寝ている避難所となっていました。そして、市役所入口では日に 3 度の炊き出しが行われていました。EV 前には「(被災者向け) 市営住宅抽選受付」「応急建物危険度判定士受付」の 2 つの張り紙があり、抽選申し込みの市民と、各自治体から派遣された危険度判定士が殺到していました。熊本市中心街ビルの躯体はしっかりしていても、上層階は揺れが激しく内部が散乱し、その片づけ後の廃棄ゴミが路上に山積みとなっていました。また都市ガスはまだ復旧せず、火を使う料理は出せず、飲食店の 7 割は休業中でした。（都市ガスは 30 日に復旧）

### 3、熊本市災害ボランティア～避難所の手伝い～（4 月 26 日）

熊本市災害ボランティアセンター受付テントは、中心市街地のバス拠点の広場にありました。朝 8 時から列に並び、9 時から受け付け開始でした。



↑4月26日（火）朝8時、熊本市災害ボランティアセンター受付前の列

私は5人のグループで、ある中学校の避難所の手伝いに派遣され、トイレ掃除と校庭の穴と水たまりの修復作業を行いました。避難所では小中学生たちが、毛布の上でDS(ゲーム)をしたり、校庭をゆっくり歩いたりしていました。勉強の遅れや運動不足をフォローすることが必要と感じました。また、震災後一人で眠られなくなった子どもが増えたと聞いており、心のケアも必要です。(終了後、熊本市役所で池田智子さんの保健師としての受け入れのお願いを市役所担当課に行いました。)

#### 4、益城町ボランティア～福祉避難所の手伝い～(4月27日)

私は学生時代、応援部とともに、駒場寮委員会や学生自治会の役員もしていました。その時の友人である阿部教授(東海大学農学部阿蘇キャンパス)に、27日は車で益城町災害ボランティアセンターまで送迎をいただきました。益城病院系列の福祉施設の福祉避難所の炊き出しや利用者への道案内の手伝いをしました。その中で、被災者宅・避難所に訪問する医療従事者の動きを見させていただきました。また、終了後は一瞬ですが、岡崎君と会うことができました。



↑中央が岡崎くん、その左が朝倉

このボランティア活動の前後に見た益城町の建物損壊状態は深刻で、一刻も早い建物危険度認定と住宅確保が必要と感じました。



#### 5、熊本市動物愛護センター訪問（4月27日）

ボランティア後、益城町に比較的近い熊本市東区の熊本市動物愛護センターを訪問しました。ここは殺処分を0にした先駆的な取り組みをしたセンターです。センター自体も被災された中、迷子犬の保護や避難所におけるペットを助ける活動を続けられていました。迷子犬保護のためそれまでいた犬の一部を北九州市が引き受けたこと、各避難所にケージを配るなどの取り組みをされたそうです。

#### 6、大学生ボランティアから話を伺う（4月28日）

28日は、熊本県庁→高速バス→福岡空港経由で戻りました。その途中、熊本市災害ボランティアセンターで受付スタッフボランティアを担った熊本大学学生の話を知りました。市内3大学（熊本大学・熊本県立大学・崇城大学）は被災し、GW明けまで休校になったこともあり、学生たちが受付スタッフボランティアをしていました。彼は情報系の学生で今まで人の組織づくりという体験がなかったそうですが、自ら何かお役に立ちたいとの気持ちで活動を始め、組織づくりについても学ぶ機会となったと言っていました。また、同じく休校となっていた高校生たちもボランティア現場に多く参加していました。今回の高校生・大学生のボランティア参加は未来への希望と感じました。

#### 7、地方自治体の防災・災害時対策の見直し

今回、現場を訪れ、地方自治体における防災や災害時の対策について様々な課題を感じました。たとえば、集団での体育館一か所での避難所生活には様々な無理があること、特にペットを連れた家族や乳幼児や女性については特設の別の部屋（特別教室など）を確保することの必要性など、これから考えていきたいと思いました。（なお、さらに詳しい報告は私の公式サイト (<http://asakura.chiba.jp>)の4月末～5月初旬に記録しています。よろしければ合わせてお読みください。)

おわりに 鉄声会・六大学応援団連盟の絆、熊本の方々の暖かい受入れ

今回、鉄声会や六大学応援団連盟の仲間とFBやメールで連絡を取り合い、自然にリレー訪問のような形になりました。熊本にて私が実際にできたことはほんの少しのお手伝いです。逆に、熊本の方々の様々なご配慮やご好意を頂き受入れいただきました。感謝いたします。